

藤原定明の謎解きシリーズ

# 神々の源流

1 神々は日本を集合場所にした

2「72神」(鎮宅靈符神)が明かす  
ちんたくれい ふじん  
神々の源流

3「約束の人」香代子先生が預かった  
「神の救いの計画」と世界の宗教

1 神々は日本を集合場所にした

## ◆ 仏教や道教の神との出会い

香代子先生が体験した「神の世界」では、

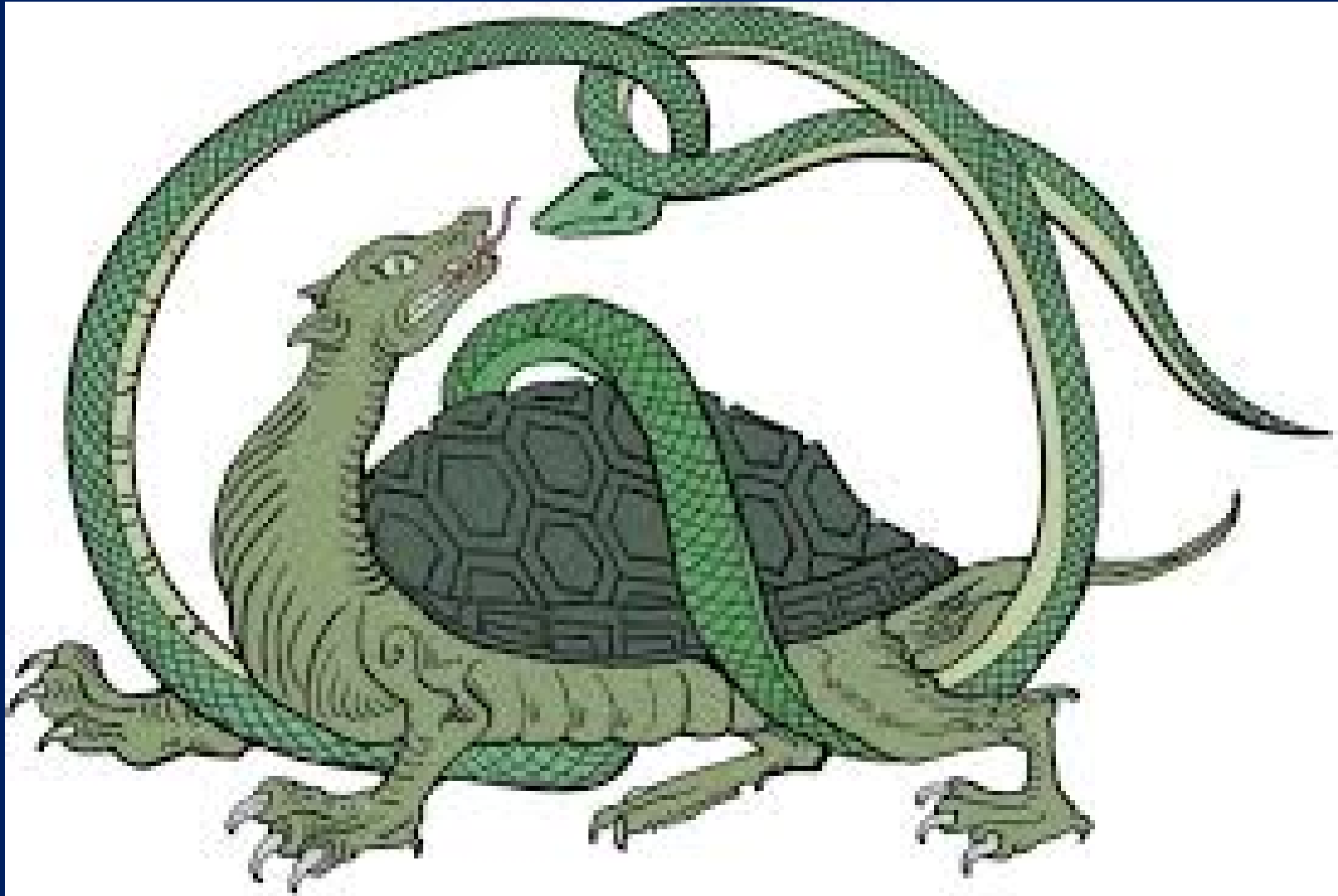
びしやもんてん  
仏教の毘沙門天や不動明王といった神々

が現れるが、72神（ちんたくれい ふじん 道教の鎮宅靈符神）も  
現われる。

ちんたくれい ふじん  
★72神(道教の鎮宅靈符神)

(昭和41年9月20日)

多数の童子の姿をした72体の神々が、天空より次々と現れる。尋ねると、「われら天の72光なり」と答えられ、しばらくすると72体が合わさり、亀と蛇の合体した姿に変化する。



## ★疑問

「どうして、異なる宗教（仏教と道教）の神が登場するのか？」

「その教えは、終末と至福千年を説くキリスト教にも通じるが、いったいその神々の源流はどこに求められるのか？」

## ★香代子先生に尋ねる

「神々は日本を集合場所にした！」

➡香代子先生が出会った、仏教や道教の神々の源流は、古代の日本に求められることになる。

## ★『竹内文書』

世界が「土<sup>どろ</sup>の海」になるような大異変がかつて何度もあり、その度に日本の天皇（現人神）が世界各地に日本人を派遣して世界を立て直し、神聖政治によって世界を平和的に統治していた。

★香代子先生の出会った「神々の源流」は、  
世界が「土<sup>どろ</sup>の海」になるような地球規模の  
天変地変の時に、世界を立て直すために、  
日本から派遣された人々が携えた神の  
教えではないのか？

★メイド・イン・ジャパンの神の教えが、中東ではユダヤ教やキリスト教に、インドでは仏教に、中国では道教に、それぞれ形を変えて残されたのではないか？

ちんたくれい ふ じん  
2「72神」(道教の鎮宅靈符神)

が明かす神々の源流

◆72神は世界中の宗教に存在する

★「72」と世界中の神話

『神々の指紋』の著者グラハム・ハンコックは、古代の世界中の神話に共通する重要な鍵になる数字「72」を発見した。

72にまつわる数字は、古代のシュメールやバビロン、ヴェーダ時代のインド、古代エジプト、古代ギリシャ、古代中国、中米のマヤ、旧約聖書のヘブライ人、ほか多くの文化に現れる。

(『神々の指紋』グラハム・ハンコック)

## ★「72神」と仏教

インドネシアのジャワのボロブドゥール遺跡  
には「72」の仏塔がある

(この遺跡はシャイレンドラ朝の780年にはじまり、7  
92年に完成)

(『神々の世界』グラハム・ハンコック)



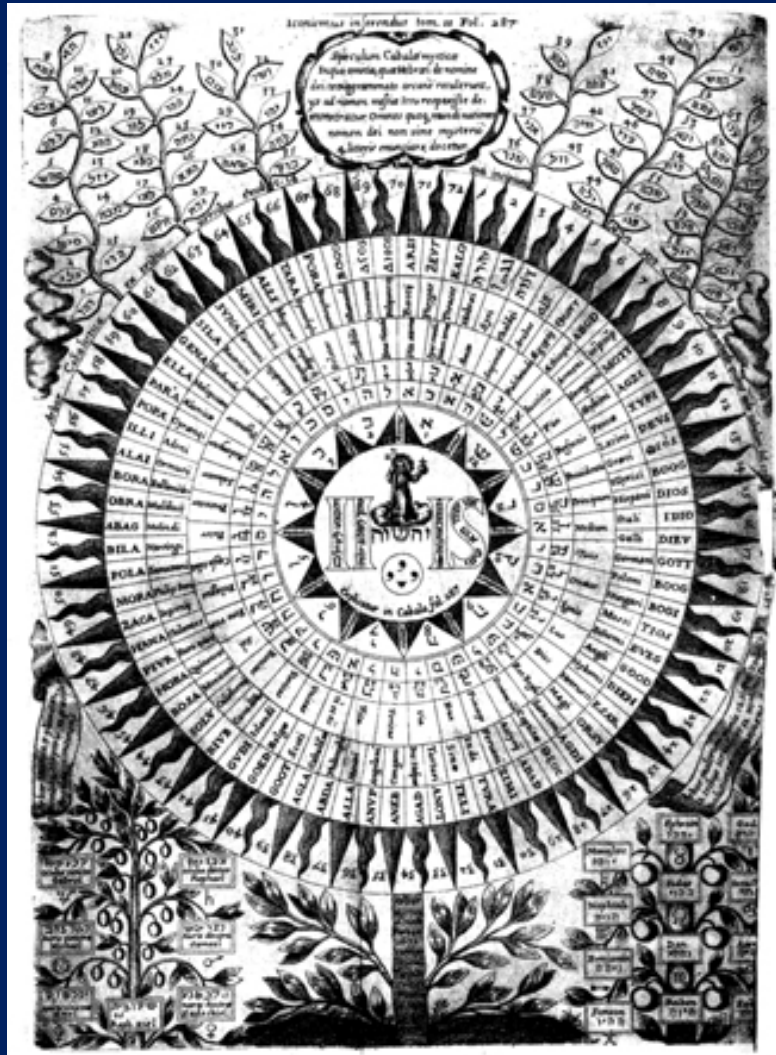
図17 「72」の仏塔を持つボロブドゥール遺跡（上）とそこに納められている仏像（下）  
ボロブドゥール円形壇上の仏塔と仏像

## ★「72神」とユダヤのカバラ

「ユダヤのカバラでは72人の天使が出てきて、その天使たちを通じてセフィロス(神の力)に近づき、またこれを呼び出すことができた。これは天使の名と数字を知るものによってなされた」

(『神々の指紋』グラハム・ハンコック)

# ★「72神」とカバラの72の神名



カバラを研究したA・キル  
ヒャーはヒマワリの花弁に72  
の神名を記された資料を発  
見。

## 〈解説〉 カバラとは

カバラとはユダヤ教の伝統に基づいた創造論、終末論、メシア論を伴う神秘主義。

独特な宇宙観を持っていることから、しばしば仏教の神秘主義である密教との類似性を指摘されることがある。

カバラとは「受け入れ」「伝承」を意味する言葉だが、……ユダヤ神秘主義を指す呼称となった際に、個人の独自の体験した神秘主義というよりは、**神から伝授された智恵**、あるいは師が弟子に伝授した神秘という意味で用いられるようになった。……

(ウィキペディア百科事典)

## 〈参考〉

### ・創造主と出会ったラビ・アキバの体験

(『ユダヤの秘義 カバラの象徴学』 セヴ・ベン・シモン・ハレヴィー著 大沼忠弘訳 平凡社)

・・・カバリストは**創造世界**に入り、かつそれを経験する。なお肉体をもちながら**「諸天」**の**光景とその住人たちを見る**のである。・・・

次に記すのは彼の体験の要約である。…  
彼は純粹な靈の「世界」に入った。天使と人間が言葉を交わすことのできるこの場所から……第2の「天の広間」に昇る。

ここは「ラキヤー」または「蒼穹<sup>そうきゅう</sup>」と呼ばれ、  
大天使ガブリエルが住んでいるという。

……「天」のしるしはここで預言者に未来の出来事を告げるのである。これは人間における「聖霊」の座でもあり……

大天使ミカエルが座を占めているこのレベルには、「天上のエルサレム」とその「神殿」がある。

……ここで彼は天上の「玉座」の前で、最高の被造物たちと交わることになった。彼は天上の合唱隊とともに賛美歌をうたい、第7「天」(アラポトの大広間)に昇ったとき、「神の臨在」に入った。

ここで彼は、あらんかぎりの力を絞ってバランスを保ちながら真直ぐに立ち、**創造主の前で震えていた。**

その後、アキバは「神の臨在」から安全裡に下降した。霊の7段階を通過し、心の7つの小さな「広間」に至り、さらにそこから肉体に戻ってきた。…

★「72神」と縄文遺跡あしずり(足摺巨石遺跡)

古代史研究家の古田武彦氏の論説(足摺  
に古代大文化圏)(THIS IS 読売7月号 平成5  
年7月1日発行 読売新聞社)

足摺の広大な巨大列石のなかに、動物の形を造形したものが発見された。

それは「亀」と「蛇状の口」を模したものの2つ。

いずれも黒潮にまつわる動物の造形だが、これらの巨石は、従来「山伏の修験道」の痕跡として処理されてきた。

だが、それには、疑いの目を向けざるを得ない。

それはどうしてかということ、これらの巨石は、修験道のルーツである、中国の舶来文化の影響を受ける前の遺跡である可能性が高い。

というのも、3500年前のブラジルのミイラから、日本独特の寄生虫が発見されたこと  
によって、「縄文人が黒潮に乗って南米のエ  
クアドルに到達した」という、エバンス説が  
証明された。

## ➡古代史研究家の古田武彦氏の仮説

「亀」と「蛇状の口」の巨石は「山伏の修験道」の痕跡ではなく、縄文時代の「古代大文化圏」(世界的なネットワーク)の痕跡。



あしずり  
足摺巨石遺跡群の  
中にある亀と蛇(72  
神)の巨石

図19 縄文時代に遡る亀と蛇が合体した「足摺巨石」(玄武)(細沼俊也氏撮影)

## 〈解説〉

「亀と蛇」が合わさった姿の「玄武<sup>げんぶ</sup>」は、「周」の時代(BC1046~BC256)に成立したと考えられている天文、占星術の四神の一つ。この四神は、5世紀頃に成立したと考えられている道教にも取り入れられた。道教の影響を受けたのが修験道。

➡この巨石は道教や修験道の影響ではなく、  
縄文時代のもの

## 〈参考〉

- ・「老子」は実在の人物ではない

『史記』の老子伝を見る限り老子の伝記は、  
はなはだ漫然としていて、執筆当時に伝え  
られたことをそのままのせたにすぎない。

『史記』が執筆された紀元前2世紀ころ、  
すでに老子は伝説上の人物になっていた。  
そのうえ、名前も後世の付加。  
そのようなことから、**老子の存在を否定す**  
**る研究者が数多くいる。**

(『道教史 世界宗教史叢書9』<sup>くぼのりただ</sup>窪徳忠著 山川出版社)

## ・老子の作とされている『道教経』の謎

長い年月にわたって、同じような傾向の考え方を持つ多くの人たちが述べたことを、ある時期に誰かがまとめたもの。

(『道教史 世界宗教史叢書9』<sup>くぼのりただ</sup>窪徳忠著 山川出版社)

## ★「72神」と中国神話

「亀に取り付いた巨大な蛇が、盤古の世界創造を助ける」

(新人物往来社 『別冊歴史読本第20号 神々のシンボルと謎の超古代史』(古代史研究家・川村忠良氏の記載)

## ★香代子先生

「72神は扇の要のような存在で、閉じる時と開くと時、すなわち大きな時代の『終わり』と始まり』の時に現れ、地球の再創造のために何らかのはたらきをする」

→72神は「**約束の時**」に現れ、**最高神**（**創造神**）の**世界創造**を助ける！？

◆「72神」＝ラー＝ヤハウエ

★「72神」とエジプトの神ラー

「太陽神ラーは、イシスの魔法の蛇に噛まれたので、彼の能力の秘密であるその真の名を告げる前に、72の神名を次々にいっ

た」(『日本ピラミッド超文明』 伊集院卿・大平光人共著  
学習研究社)

## 〈解説〉

「ラーがどういう存在であったか、そのイメージは書物の中にはよく示されていない。…

その栄光がけんじ顕示されるには余りにも**神秘に満ち**、人々が彼について問うには余りにも偉大であり、知れ渡るには余りにも強大すぎるからである。

もし彼の神秘的な、知らせることができない  
名が唱えられたなら、人は恐怖のためにそ  
の場で倒れ死ぬ。いかなる神も彼にその名  
で呼びかけることはできない。霊魂を持てる  
神、彼は神秘なるがゆえに、その名は隠さ  
れている」

(『神話伝承事典』(バーバラ・ウォーカ著 大修館書店)

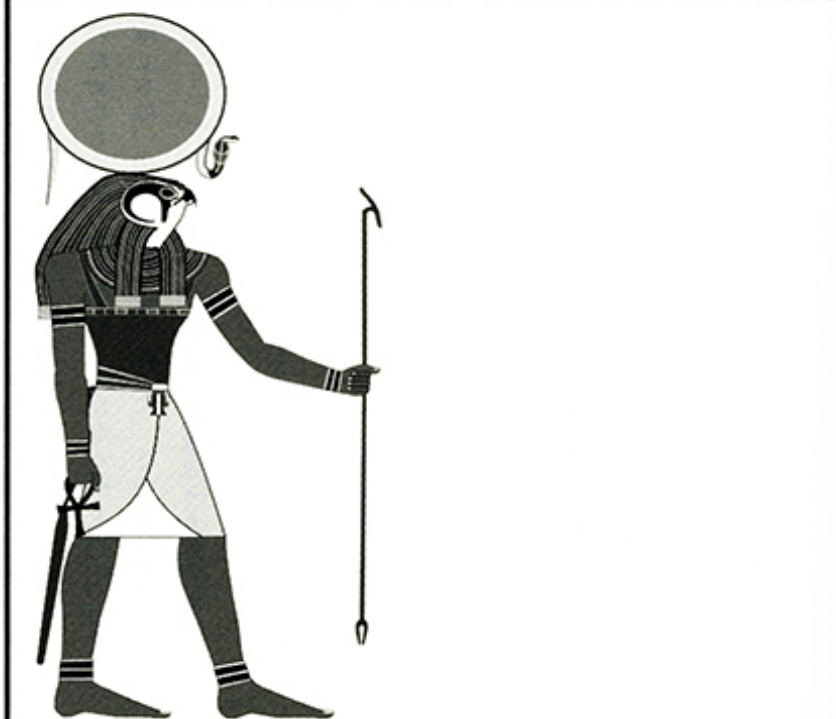


図21 ラメセス2世第神殿に掘られた太陽神ラー（ラー・ホルアクティ）とラー神の模式図

## ★「72神」とラーとヤハウエ

「ユダヤ人は熱狂的にラーを受け入れ、  
ラーとヤハウエを同一視した」(『神話伝承事典』)

「モーゼは幕屋の中で、エホバ(=ヤハウエ)の神に72個のアーモンドを供えた」

(『カバラと薔薇十字団』(マンリー・P・ホール著 人文書院))

## ★「72神」と「ノストラダムスの預言」

「1999年7の月 恐怖の大王が空から降ってくる。アンゴルモアの大王を甦らせるために。その前後の期間マルスは幸福の名のもとに支配するだろう」(10-72)

## ★「72神」と「日月神示」

「世界自由自在に分け獲りしていた神々様、  
早う改心第一ぞ。一つの王で治めるぞ。て  
んし様とは天地様のことざと申してあろうが  
な、この方シチニの神と現れるぞと申してあ  
ろうがな、・・・」

(第14巻 風の巻 第8帖 359)

## ◆イシス＝最高神

「太陽神ラーは、イシスの魔法の蛇に噛まれたので、……72の神名を次々にいった」

「イシスは星についての神秘を、自分の息子の神に明かした」(『神話伝承事典』)

➡イシスは72神を甦らせた

◆イシス＝最高神(創造主)＝盤古＝梵天

- ・最高神(天地王大神尊)＝仏教の「<sup>ぼんてん</sup>梵天」  
(香代子先生による)

〈参考〉

「イスラエル」という名称とエジプトの神

『聖書』によると、イスラエルという名称は、ユダヤ人のヤコブが、神である人物と戦って勝利したことで授けられたものとされている。

だが、その起源は古く、それはエジプトの神、  
イシス (Isis) とラー (Ra) が結合したものに  
エル (EL=神) がついたものなのである

(Isis+ Ra EL)。 (『神話伝承事典』バーバラ・ウォ  
ーカ著 大修館書店)

➡「イスラエル」という名称は、  
彼らがエジプトの宗教密儀を継承したことを暗示している

## ★「72神」と「フリーメイソン」

国連本部ビルの瞑想室には、複雑な幾何模様が描かれているが、その数は72である。ロバート・K・スペンサーによると、それはフリーメイソンの象徴であるという。

(『ガイアの法則 I』千賀<sup>ち</sup>一<sup>が</sup>生<sup>か</sup>著 <sup>ず</sup>ヒカルランド)

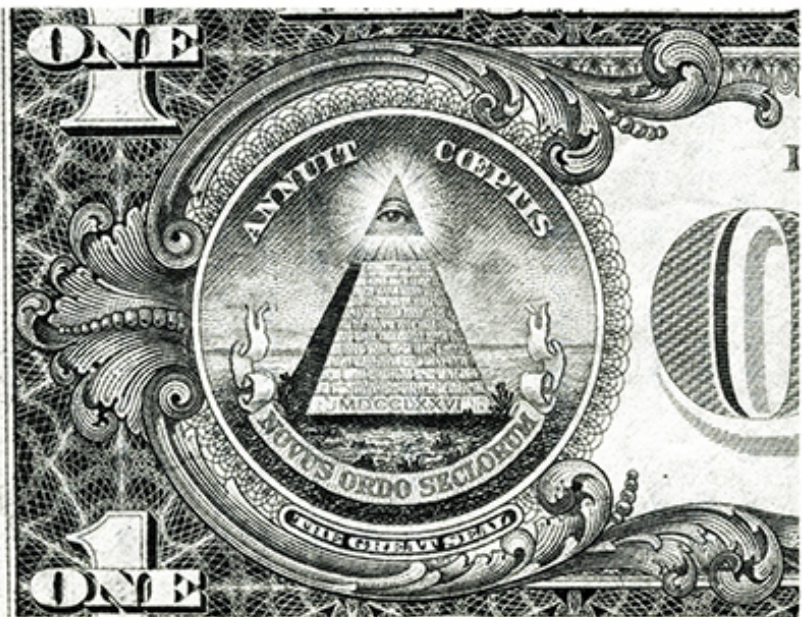


図24 アメリカ1ドル紙幣の表・裏(上)とそのフリーメーソン関連部分の拡大(下)

## 〈解説〉

- ・「暗号者」の宗教や伝統を受け継いだのは「エジプト」であり「フリーメーソン」
- ・エジプトの宗教を受け継いだのは、「イス・ラー・エル」に象徴される「イスラエル人」
- ・それは、「カバラ」に受け継がれた

〈まとめ〉

最高神＝イシス・創造主・盤古・梵天

天地王大神尊・恐怖の大王・テンシ

72神＝ラー・ヤハウエ・鎮宅霊符神・亀に取

り付いた巨大な蛇・アンゴルモアの

大王・シチニの神

3「約束の人」香代子先生が

預かった「神の救いの計画」

と世界の宗教

## ◆「最高神の住まい」と「世界の宗教」

### ★「神の住まい」とエジプト

「王は天界を統一し、王の力は南と北の地と、以前いた神々に及ぶ。王は正しいやり方で神の都を建設した」

神の都、天上の都、太陽の都など呼び名は  
様々だが、いわゆる「**天上の都市**」を、**地上  
に建設する**という思想があった。

(『タリズマン 秘められた知識の系譜』上 グラハム・ハ  
ンコック ロバート・ボーヴァル 大地舜訳 竹書房)

## ★「神の住まい」と道教

- ・道教の「崑崙<sup>こんろん</sup>」は中国の神話伝説上の神々の集う空想上の靈山でもあり、実在の山脈の名前でもある。(『道教事典』 平河出版社)
- ・崑崙 = 3層構造
- ・先生の体験した「神の世界」 = 3つの世界  
(「天上界」「地天界」「三界」)

- ・**崑崙山**(神の世界)を高く登りつめるものは、その高みに応じて、不死→**靈**→神へと**絶対者に近い力をつけていくことができ、**登りきるとそこには太帝つまり**天帝の居所**  
えなんじ  
に至る。(『道教事典』平河出版社 『淮南子』)

・天帝の居所、すなわち天上世界の宮殿を  
「天宮」と呼び、この天宮には「<sup>しんせん</sup>神仙」にな  
ったものしか行けないと考えられていた。

(道教の教典 『老子中経』)

※神仙とは、神界と人間界を自由に行き来  
できるもの。(『日本の道教遺跡』福永光司、千田  
稔、高橋徹著 朝日新聞社)

- ・秦の始皇帝や漢の武帝も、**天上の都**をモデルに、それを**地上に再現**するという「**天<sup>てん</sup>都<sup>と</sup>憧憬<sup>しょうけい</sup>思想**」、すなわち「**神の世界**」の都への憧れがあり、それが都城制の基本原理となった。

(『道教と日本の宮都』高橋徹著 人文書院)

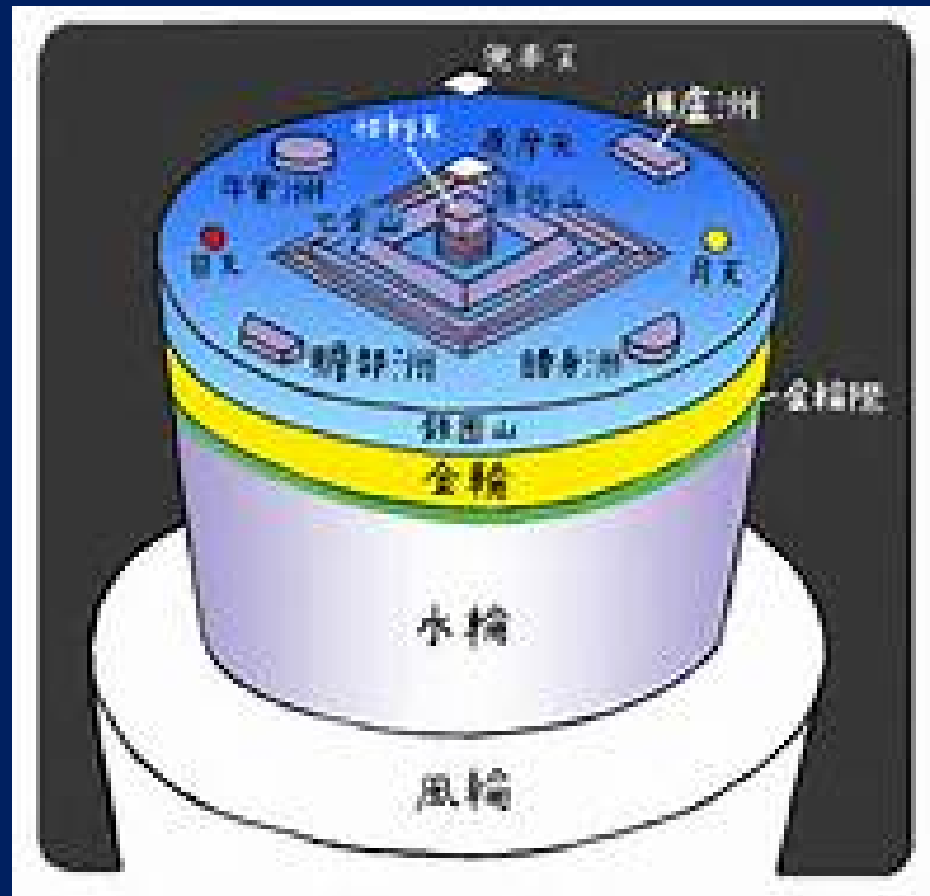
## ★「神の住まい」と仏教

- ・仏教の「須弥山」(＝道教の「崑崙」)
- ・須弥山の概念は、古代インドの宇宙観に根ざしている。ヴェーダ聖典に記された世界は、**天界、地上、地下の三層構造**を持つが、その中心にそびえるのが**須弥山**である。

- ・仏教では須弥山は宇宙の秩序そのものを体現する象徴。頂上には帝釈天の宮殿があると考えられている。

(オンライン百科事典 アリストテレスの本棚 参照)

# 須弥山のイラスト



## 〈解説〉

帝釈天はバラモン教、ヒンズー教のインドラ神が、仏教に取り入れられたもの。

インドラ神は阿修羅あしゅらと戦闘した武神だったが、仏教に取り入れられて帝釈天となつてからは、釈迦を助け、その説法を聴聞したことになっている。

# 梵天と並んで仏教の二大護法善神となる

(ウィキペディア)

帝釈天(左)と梵天(右)

※帝釈天と梵天は対になって

祀つられることが多く、「梵釈」

と言われることがある。

また、両者の像はほとんど同

じ姿で表現されることが多い。



# ★「神の住まい」とユダヤ教のカバラ

## ・<sup>ゾハル</sup>『光輝の書』序章

「・・・このように、**[始まり]**に(含まれた)神秘的で知られざるものが**宮殿を形づくる**。  
この宮殿はエロヒム(神)と呼ばれる。  
そして(宮殿における)教義にはつぎの言葉が含まれている。

『はじめに神(エロヒム)によって(すべて)は  
創造された』……」

(『カバラーユダヤ神秘思想の系譜』箱崎総一著 青土  
社)

〈解説〉 カバラの聖典「ゾハルの書」とは

スペインのラビ・モミュ・デ・レオン(1250年頃～1305年)が、カバラ神秘主義のあらゆる伝承を吸収して、それらが大傑作にしたといわれるカバラの聖典。

# ◆「約束の時」と「世界の宗教」

## ★「約束の時」と古代インドの宇宙観

「宇宙の終末はただ1度の出来事ではなく、来るべき再創造への1ステップであり、宇宙の**創造**と**維持**と**帰滅**は順次に繰り返されつづけ、不滅にして終わることがない。

この過程はブラフマー(梵天)の一昼夜(人間界の86億4千年にあたる)におけるなりわいであり、最高天に朝あかつき暁が訪れるとき、**ブラフマーがふと目を覚まし宇宙の創造が始まる。**

生成された宇宙は天国の昼のあいだはそのままの状態  
で維持され、天国に夕闇がせまりブラフマーが眠るにつくと  
き、宇宙の帰滅が始まる。天国の夜は、再創造が始まるまでの  
ブラフマーの休息時である。……この宇宙周期はブラフマーの  
一生涯を通じて毎日繰り返される。……」(『仏教・インド思想辞  
典』監修 早島鏡正 編集代表 高崎直道 春秋社)

## ★「約束の時」と道教

「天地は一定の周期で終末をむかえ崩壊し、  
また再生される。この崩壊と再生は永遠の

循環であり、てんちかいびやく天地開闢のたびに常在不滅で

あるげんしてんそん元始天尊ばんこ(盤古)が、たじょうろうくん太上老君、たじょう太上

じょうにん丈人らに秘道を授けて人々を救済する」

(『「道教」の大辞典』新人物往来社)

## 〈解説〉

- ・「元始天尊」とは、隋と唐の時代に名づけられた最高神の呼び名。
- ・「太上老君」とは、思想家としての老子が、道教の神とされた時の尊称
- ・「太上丈人」とは、元始天尊から奥義を授かった天仙の一人

(『「道教」の大辞典』新人物往来社)

てんちかいびやく  
「天地開闢、すなわち『約束の時』のたびに、  
常に存在して滅びることのない（常在不滅）  
最高神（元始天尊）が甦って、太上老君、太  
上丈人らに秘道を授けて人々を救済する」

## ★「約束の時」とキリスト教

世界の終わりにイエス・キリストが再臨し、あらゆる死者をよみがえらせて裁きをおこない、永遠の生命を与えられる者と地獄に堕ちる者とをわけるとされる。(ウィキペディア百科事典)

悪が神によって裁かれるという「最後の審判」の思想は、ゾロアスター教、ユダヤ教、イスラム教にもある。

（日本大百科事典 小学館）

〈解説〉

古代インドの宇宙観のブラフマー(梵天)

=道教の「元始天尊」

=キリスト教のイエス・キリスト

は「約束の時」のたびに甦る。

## ◆お伝えしたいこと

- ・香代子先生が「神の世界」で出会った**72神**は、世界の主要な宗教の源流にあった
- ・香代子先生が出会った最高神**(天地王大天尊)**は、それぞれの宗教で名前は異なるが同じ神。

・香代子先生が、神から伝えられた「**約束の時**」や「**最高神の住まい**」を再現するという「**神の計画**」も、世界の主要な宗教に見られた。

➡香代子先生が甦らせた神々は、世界の主要な宗教の元になる神（**世の元の神**）

- ・「約束の人」香代子先生と「ヤタガラス」が  
預かった「神の救いの計画」によると、

地球の再生の「約束の時」に、世界を救うた  
めに「約束の地」に「約束の人」が甦り、  
「人の世」から「神の世」になるというもの。

- ・ 謎解きシリーズの  
「甦った神々」と「神々の源流」から、  
「神の救いの計画」(宇宙の法則)は次のよ  
うになる。

「約束の時」には、「約束の地」に再臨する  
「約束の人」によって、イスラエル(イシス＋  
ラー エル)という国名に象徴される、  
最高神(イシス)と72神(ラー)をはじめとする  
「世の元の神」が甦り、世界が再創造され  
る。